東臼杵南部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年9月　東臼杵農林振興局
（東臼杵南部農業改良普及センター）

東臼杵南部農業改良普及センター
ホームページ

目次

Ⅰ　管内農業・農村の出来事や新たな動き　（Ｐ２、３）

1　【美郷町】水稲高温対策研修の実施
2　【全域】9月期子牛セリ市前研修が開催
3　【日向市】へべす感謝祭で旬のへべすをPR
4　【美郷町】青ゆずの出荷目揃え/時期的管理講習会の開催
5　【椎葉村】夏秋野菜の巡回指導で秋季の生産状況確認

Ⅱ　主な普及指導活動等の取組

1　地域プランに基づく普及活動　（Ｐ３～５）

1　【日向市】法人経営体への経営支援を実施　（施策1:水田農業の確立）
2　【日向市・門川町・美郷町】冬春ミニトマト専門部会巡回指導(定植時)の実施　（施策2:園芸産地の確立）
3　【日向市・門川町・美郷町】冬春ミニトマトの今作の取組検討　（施策2:園芸産地の確立）
4　【日向市】施設胡瓜専門部会ワーキンググループの開催　（施策2:園芸産地の確立）
5　【日向市・美郷町】就農希望者及び新規就農者への個別支援を実施　（施策2:園芸産地の確立）
6　【日向市】地域基本コンサルを実施　（施策2:園芸産地の確立）
7　【日向市】大規模経営体で農福連携によるへべす収穫を初めて実施　（施策2:園芸産地の確立）
8　【管外】農の事業承継推進大会で美郷町さいごう完熟金柑部会が事例発表　（施策3:果樹の産地体制づくり）

2　地域課題一覧に関する普及活動　（Ｐ５）

1　【美郷町】スイートピーの巡回による品種構成の確認
2　【諸塚村】夏秋ミニトマト中間実績検討会の開催

Ⅰ　管内農業・農村の出来事や新たな動き

1　【美郷町】水稲高温対策研修の実施

４日、JA西郷支店で生産者25名、関係者５名が参加しJA八菜館出荷者西郷・北郷支部研修が開催されました。

研修ではJAから情勢報告および直売所「八菜館」への出荷ルールについて周知が行われ、普及センターからは水稲の高温対策についての説明と、熱中症対策・農作業安全対策について啓発を行いました。

生産者からは、高温耐性品種についての質問や「来年作付に取り組んでみたい」といった前向きな感想が寄せられ、高温対策への関心の高さが伺える有意義な研修となりました。



【八菜館出荷者
西郷・北郷支部研修】

2　【全域】9月期子牛セリ市前研修が開催

６日、延岡家畜市場で生産者約30名が参加し、子牛セリ市前研修が開催されました。

今回の研修では、普及センターからWCSの収穫適期やカビ発生防止対策、除草剤の散布適期等について説明しました。

WCSの収穫時期を迎える前の研修であり、生産者からは「籾の状態を確認して収穫適期確認を実践したい」「飼料保管方法を見直したい」等の声がきかれました。



【９月期子牛セリ市前研修】

3　【日向市】へべす感謝祭で旬のへべすをPR

６日、JA八菜館特設ブースで、へべす感謝祭が開催され、生産者３名、関係者４名が参加しました。

この感謝祭は、JAみやざき日向地区本部平兵衛酢部会の産地戦略ビジョンの取組の一環で、ビジョン班員(生産者、関係者)が旬のへべすを消費者にPRする目的で毎年開催しています。

生産者が丹精込めて栽培したへべすを求めて、多くの消費者が訪れ、午前中で完売するほど大盛況となり、へべすの魅力をPRできる良い機会となりました。



【へべす感謝祭】

4　【美郷町】青ゆずの出荷目揃え/時期的管理講習会の開催

３日、JA美郷南郷支店で、生産者５名と関係者５名が出席し、青ゆずの出荷目揃え会が開催されました。JAから出荷要領や、持込み日の説明がなされ、持ち寄った青ゆずの傷の程度など出荷基準の目揃えを行いました。

普及センターからは、収穫に向けた注意点として防除の収穫前日数に気をつけるよう講習を行いました。管内の青ゆずは県内業者に加工原材料として出荷されます。



【ゆず出荷基準の目揃え会】

5　【椎葉村】夏秋野菜の巡回指導で秋季の生産状況確認

8、10、11日に、椎葉村農業技術員会で、ほうれんそう６件、ミニトマト22件の全戸巡回指導を行いました。
夏秋ミニトマトは、例年８月の高温期に落花が見られますが、今作は丁寧な遮光・葉面散布・養水分管理に務めたことが功を奏し、平年以上に収穫できたと生産者からの声が聞かれました。
夏秋ほうれんそうは、土壌水分条件のバラツキや高温乾燥により発芽不良や立ち枯れ病とならないよう品種を使い分けて工夫している様子がうかがえました。
椎葉駐在からは、病害虫の発生状況に基づく対策指導を行いました。


【巡回での栽培状況の確認】

Ⅱ　主な普及指導活動等の取組

1　地域プランに基づく普及活動

1　【日向市】法人経営体への経営支援を実施

11日、宮崎市の宮崎県よろず支援拠点で、日向市の法人の代表者１名に対し、経営相談会を実施しました。
専門家から法人の課題を分析していただき、今後の法人の運営方針に関する助言を頂きました。
今後も関係者と連携した経営体支援活動を継続して実施し、法人経営の課題解決に向けて積極的に取り組んでいきます。

2　【日向市・門川町・美郷町】冬春ミニトマト専門部会巡回指導(定植時)の実施

７から９日の３日間で、美郷支部、日向（東郷）支部、門川支部の定植時の管理状況を確認するため、部会員全員のハウス巡回を部会長及び関係者４名で実施しました。
高温や日照不足などこれまでにない厳しい環境の中、定植時のコナジラミ対策、定植後のかん水管理、農薬散布状況等を聞き取りました。
普及センターからは、地域プランで計画したトマトキバガとコナジラミ対策のチェックリストを作成し、特に定植前後の取組状況を確認しました。
今年は県の防除情報からキバガの大発生が見込まれるため、JAではモニタリング用の粘着板の購入支援も実施しながら、部会全体で侵入警戒を強めていきます。


【冬春ミニトマト専門部会巡回指導】

3　【日向市・門川町・美郷町】冬春ミニトマトの今作の取組検討

17日、JA営農センターで、生産者６名、関係者４名が出席し、冬春ミニトマト専門部会役員支部長会が開催されました。JAから令和８年産の最終実績と令和９年産の作付・出荷計画、販売方針が示されました。
普及センターからは、巡回で聞き取ったトマトキバガとコナジラミ対策チェックリストの支部別の集計結果を説明し、今後の対策の参考とするよう助言しました。
また、今作から部会の取組として、生育診断による生産性向上や市場関係者へのほ場の動画提供による産地信頼アップに取り組んでいくことが共有されました。

4　【日向市】施設胡瓜専門部会ワーキンググループの開催

９日、JA美々津支店で、生産者５名、関係者３名が出席し、施設胡瓜部会のワーキンググループが開催されました。
JA本店の指導員から定植前後の管理について、高温対策や土壌改良資材までの幅広い内容で講義が行われました。
生産者からは、講義をうけ、他地域で使用されている資材を早速導入する動きも見られました。
普及センターからは、今年の施設園芸デジタルプロジェクト（Dプロ）で取り組む生育調査の項目などについて計画を説明しました。今後、データを活用しながら、生産性の向上を図っていきます。



【施設胡瓜専門部会の
ワーキンググループ】

5　【日向市・美郷町】就農希望者及び新規就農者への個別支援を実施

９月は、日向市で１名、美郷町で２名を対象に就農検討会を行いました。また、日向市及び美郷町で各１名を対象に、就農計画の作成を支援しました。
就農検討会では、第三者承継による就農予定者に、活用可能な補助事業の説明や就農計画の作成に必要な資料を提供し、就農前後のスケジュールを整理しました。
また、親元就農者や第三者承継による就農者には、現状や今後の営農意向を確認し、必要な情報を提供しました。
就農計画作成支援では、本人が作成した計画を確認し、必要な情報の収集や内容の修正について助言しました。
今後も関係者と連携し、課題に応じた支援を行うことで、早期の就農定着を後押ししていきます。

6　【日向市】地域基本コンサルを実施

10日にJA美々津支店で園芸経営、17日にJA経営支援センターで肉用牛繁殖経営の各農業者に対して、JAと連携して地域基本コンサルを行いました。
コンサルでは、それぞれの経営主と現状・課題を確認し、技術面及び経営面の課題を共有して、今後の課題解決に向けた具体的な対策について意見交換を行いました。
生産コストが上昇している厳しい情勢ですが、経営改善に向けた戦略を検討する有意義な場となりました。



【地域基本コンサル】

7　【日向市】大規模経営体で農福連携によるへべす収穫を初めて実施

15日、日向市東郷の法人のへべす園地で、日向市内福祉事業所２か所の職員や利用者ら計10名が参加し、農福連携によるへべす収穫を初めて実施しました。
法人では、３年前に定植した2.5haの園地が本格的な収穫時期を迎え、雇用人材確保の手段として、今回、見学会を経て農福連携を活用しました。
施設利用者の皆さんは、初めてのへべす収穫に最初は戸惑っていましたが、徐々に作業に慣れ、順調に収穫を進めていました。
10月上旬まで、２か所の福祉事業所と連携しながら作業人数を調整し、実施していく予定です。

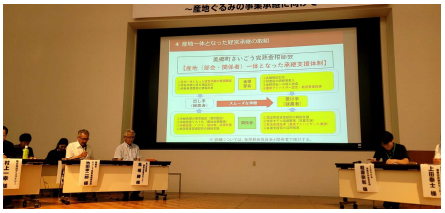


【農福連携によるへべす収穫作業】

8　【管外】農の事業承継推進大会で美郷町さいごう完熟金柑部会が事例発表

２日、宮崎市のJAAZMで生産者、関係者ら150人が参加して「農の事業承継推進大会」が県と農業振興公社の共催で開催され、承継専門家の基調講演、県内４地域の先進事例やクロストークが行われました。

美郷町さいごう完熟金柑部会から６名が出席し、池田部会長が「産地一体となった承継支援体制」の取組を発表しました。会場から合意形成で苦労した点や関係者の役割分担等について多くの質問を受けるなど、大きな反響がありました。



【事例発表を行う池田部会長】

2　地域課題一覧に関する普及活動

1　【美郷町】スイートピーの巡回による品種構成の確認

16日、スイートピーの定植に合わせ、美郷町の生産者４名を対象に、関係者５名で巡回を行いました。

定植は９月５日から16日にかけて行われており、活着状況の確認と品種構成の把握をあわせて行いました。害虫や立枯れ対策を講じたことで、生育は順調で、早いところでは摘心作業も開始されていました。

また、現地で栽培実証中の「試交30号」も順調に生育しています。今後も、品質の高い切り花生産につながるよう計画的に支援をしていきます。

2　【諸塚村】夏秋ミニトマト中間実績検討会の開催

３日、JA諸塚支店で、生産者10名と関係者４名が出席し、諸塚村の夏秋ミニトマト中間実績検討会が行われました。

８月16日までの出荷実績では、７、８月は昨年よりも高単価で推移し、生産者の意欲も高まっています。

JAから福岡で実施した県産品点検で、市場から事故品の少なさを求める意見や、食味等の調査結果を伝え、高品質生産を心がけるよう呼びかけがありました。

普及センターからは、品種比較試験の途中経過の報告とトマトキバガへの警戒を強めるよう啓発を行いました。生産者からは、LINEグループを積極的に活用して欲しいと要望があり、関係者も含めた情報共有に努めていきます。



【夏秋ミニトマト中間実績検討会】